

「流れ」でおさえよう！

第2回 奈良時代

＜政権掌握者の変遷＞

藤原不比等 → 長屋王 → 藤原四子 → 橘諸兄
→ 藤原仲麻呂 → 道鏡 → 藤原百川

奈良時代はだいたい10年ごとに実力者＝政権担当者が変わっていききました。しかも、「藤原氏」→「非藤原氏」→「藤原氏」のように、交互に政権の中心人物が変わっていきます。7組の実力者がいましたが、その順番をしっかりと頭にたたき込んでくださいね。

まず最初に登場するのが藤原不比等でした。中臣鎌足の息子ですよ。不比等が当時の女帝に取り入り、藤原氏が外戚となっていく端緒を作りました。不比等の死後権力を握ったのが天武天皇の孫の長屋王でした。しかし、藤原氏が光明子を聖武天皇の皇后にしようとしたため、その前に立ち上がった長屋王は藤原四氏の策略で自殺に追い込まれてしまいました（長屋王の変）。

権力を握ったかに見えた藤原四氏ですが、次々と天然痘で亡くなってしまいます。その後を受け継いだのが橘諸兄でした。諸兄は元昉や吉備真備を登用しますが、これに対して大宰府で藤原広嗣の乱が起きます。諸兄に代わって台頭してきたのが藤原仲麻呂でした。光明皇后の信頼も厚く権力を掌握します。淳仁天皇からは恵美押勝の名まで頂戴しますが、これに対して橘奈良麻呂の乱が起きます。

仲麻呂に変わって権力を握るのが、孝謙上皇（そして重祚した称徳天皇）に信任された道鏡でした。恵美押勝の乱を鎮圧し、道鏡は権力の中枢に座りますが称徳天皇が亡くなると、下野国薬師寺別当に左遷させられます。代わって藤原百川が権力を掌握し、天皇も天智系の光仁天皇が即位します。

ところで確認したいことがあります。藤原四氏って誰でしたっけ？ また、それぞれが藤原四家の始祖となりますが、何家でしたっけ？

無智麻呂→南家、房前→北家、宇合→式家、麻呂→京家でしたね。

ついでにふれておくと、藤原広嗣は式家、藤原仲麻呂（恵美押勝）は南家、藤原百川は式家、でした。平安時代初頭に登場した藤原種継、仲成、薬子の3人は親子であり式家でした。奈良時代終盤と平安時代初頭は式家が権力を握っていたと言えるんですね。

<奈良時代の天皇の変遷>

元明天皇 → 元正天皇 → 聖武天皇 → 孝謙天皇
→ 淳仁天皇 → 称徳天皇 → 光仁天皇

奈良時代最初の天皇が天智天皇の娘であり、また天武天皇と持統天皇の間に生まれた草壁皇子の妻である元明天皇です。彼女は和同開珎を鑄造し、平城京遷都も行いました。

次も女帝で、元明と草壁の間に生まれた娘が未婚のまま元正天皇となります。この時代には百万町歩開墾計画や三世一身法が発せられました。

次の天皇は文武天皇と不比等の娘宮子の中に生まれた聖武天皇ですね。国分寺建立の詔や大仏造立の詔を出して鎮護国家をはかります。また、墾田永年私財法を発しました。

そして聖武天皇と光明皇后との間に生まれた孝謙天皇でした。またまた女帝ですよ。

彼女の後が、淳仁天皇ですが、恵美押勝（藤原仲麻呂）の乱の後に、淡路に流されてしまいます。

孝謙上皇が重祚して称徳天皇が誕生しますが、彼女は道鏡を厚く信任しました。

称徳没後は、天智天皇の孫で高齢の光仁天皇が即位しました。光仁天皇の誕生は皇統が天武系から天智系へと転換してしまう歴史的意義がありましたね。

<東北経営の基地の変遷>

淳足柵（647年） → 磐舟柵（648年） → 出羽柵（708年）
→ 多賀城（724年） → 秋田城（733年）
→ 胆沢城（802年） → 志波城（803年）

奈良時代に入る前、孝徳天皇の時代に日本海側に淳足柵・磐舟柵が設けられました。

斉明天皇の時代には阿倍比羅夫が派遣され、秋田地方などさらに北方の蝦夷と関係を結びました。

元明天皇の時代に**出羽柵**を築き、さらに出羽国が置かれました（712年）。

聖武天皇の時代には、太平洋側陸奥国に**多賀城**を築き、**国府と鎮守府を置**きました。その後、秋田城が築かれます。

平安時代に入り、**桓武天皇**の時に**坂上田村麻呂**が**胆沢城**を築き、アテルイを降伏させて、鎮守府を多賀城からここに移しました。さらに、翌年には北上川上流に**志波城**を築き、東北経営の前進拠点としました。

このあたり、地図でしっかりと確認しましょうね。